

# 第82回全日本大学総合

## Singles Women's

女子シングルスは、鈴木李茄(専大)と高橋真梨子(同志社大)が決勝で対戦。

高橋がバック面の变化と鋭いフォアハンド攻撃でゲームカウント3対1とリードをする。後がなくなった鈴木だが、徐々に高橋の変化に対応。緩急を使った両ハンド攻撃でリズムを掴みフルゲームに持ち込むと、最終ゲームはエンジン全開。攻める姿勢を崩さず一気に突き進み優勝を決めた。「こちらが強打すると相手の変化が大きくなるので緩いボールなどを混ぜて対応しました。優勝できて嬉しいです」と鈴木。準優勝の高橋は、優勝するチャンスがあっただけに残念な結果に。ベスト4には、安定したプレーを見せた山本(中央)、速攻プレーの小道野(早大)。ベスト8には、丹羽(淑徳大)、政本(同志社大)、中畑(愛工大)、阿部(早大)が入った。



**第3位 山本怜(中大)**  
ミスの少ない両ハンド攻撃でラリー戦に強く、決定打あるフォアハンド攻撃で得点を重ねた



**第4位 小道野結(早大)**  
ピッチの早いバックハンドを軸に、安藤(専大)、後輩の阿部(早大)らに勝利。高橋とも接戦を演じた

### 鈴木李茄(専大)が 新女王に。単複2冠達成

「決勝のスコアが1対3となりましたが、なぜミスをしているのか冷静に考えて、戦術を変更できたことがよかったと思います」とコメント。緩急を使った両ハンドが良かった



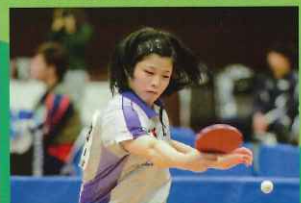
女子シングルス優勝  
鈴木李茄(専大)



準優勝  
高橋真梨子(同志社大)  
バックの変化攻撃と得点力の高いフォアハンドドライブ、スマッシュ攻撃が良かった



**第8位 政本ひかり(同志社大)**  
バランスのとれたフォームから繰り出す、威力ある両ハンド攻撃がよかった



**第7位 中畑夏海(愛工大)**  
両ハンドともしっかりとしており、回転量の多い攻撃が魅力。ラリー戦にも強さをみせた



**第6位 阿部愛莉(早大)**  
バック面のラバーを活かし、弾道の低いスマッシュ攻撃で上位進出。先輩・小道野に敗れるも、充実した内容であった



**第5位 丹羽美里(淑徳大)**  
星野美香(青学)以来の4連覇を狙うも、準々決勝で優勝した鈴木に敗戦。ただ、パワフルな両ハンドは大会随一の威力であった

# 選手権大会

個人の部

10月22~25日  
ハンナリーズアリーナ(京都市体育館)

## Men's Singles

男子単は、森園政崇(明大)と大島祐哉(早大)が決勝で対戦。

森園が第1ゲームを取り迎えた2ゲーム目。肩を痛めてしまうアクシデントで大島が2ゲーム目を取る。しかし3、4ゲーム目は森園が取り手をかける。5ゲーム目は大島が意地を見せて奪うも、6ゲーム目は森園が気迫あふれるプレーで取り2連覇を達成した。「2ゲーム目で肩を痛めてしまいそこから怖くなってしまいましたが、3ゲーム目以降は普通にプレーできました。調整練習が出来ていなくて大会前は不安もあったので勝てて良かったです」と森園。

惜しくも敗れた大島。フットワークを活かした回転量の多い攻撃が良かった。3位にはガッツ溢れるプレーをみせた松下(明大)、ボールタッチの良い田添(専大)が入り、ベスト8には吉田(愛工大)、町(明大)、宮本(中大)、定松(中大)がそれぞれ入った。



**第3位 松下海輝(明大)**  
フォア前に出されたサービスにも思い切りの良いチキータレシーブなど、気持ちの入ったプレーで吉田(愛工大)に勝利するなど活躍



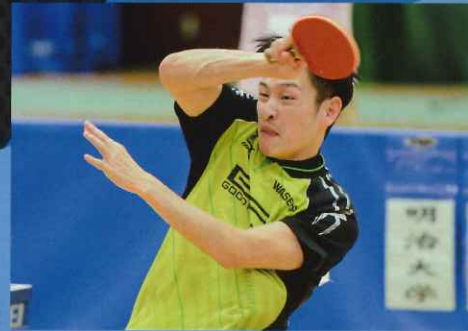
**第4位 田添健汰(専大)**  
相手に強打されてもミスの少ないカウンター攻撃と、威力あるフォアハンド攻撃をみせた

### 森園政崇(明大)が 接戦を制し2連覇を決める



男子シングルス優勝  
森園政崇(明大)

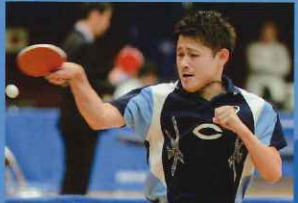
「昨年と違いなかなか練習量が確保できていなかったのが正直不安がありました。連覇できてよかったと思います。」試合序盤で肩を痛めてしまうも持ち前のガッツで乗り切った



準優勝 大島祐哉(早大)  
フットワークを活かした強力なドライブで得点を重ねる。決勝では質の高いプレーで森園と接戦を演じたが惜しくも敗戦



**第8位 定松祐輔(中大)**  
台上でもしっかり振り抜かれた威力あるバックハンド攻撃を軸に、ラリー戦でも強さをみせた



**第7位 宮本幸典(中大)**  
打点の早い思い切りの良いプレーで勝ち上がった。京都の高校を卒業ということもあり、相性の良さもみせた



**第6位 町飛鳥(明大)**  
オーソドックスな両ハンドスタイルで、ミスも少ないプレイヤー。果敢に攻めるも敗戦。ランク6位



**第5位 吉田雅己(愛工大)**  
頭を使ったプレーを見せるも大事な場面で失点してしまうシーンが目立った。しかし5回戦の有延(明大)戦で見せた一戦は見事であった



# 第82回全日本大学総合選手権大会

10月22～25日 ハンナリースアリーナ(京都市体育館)

個人の部

## Men's

## Doubles

男子ダブルス決勝、台上攻撃から大きなラリーに持っていく展開を軸に攻めた、田添健汰・郡山北斗(専大)が、大島祐哉・上村慶哉(早大)を下し優勝を決めた。大島・上村組は、高い攻撃力がひかった。ベスト4は、山本・平野(早大)、上江洲・松下(愛工大)が入った。

### 男子複で、田添健汰・郡山北斗(専大)が嬉しい初優勝

#### 準優勝

大島祐哉(右奥)  
上村慶哉(早大)

レシーブから積極的にチキータ攻撃をするなど、果敢に攻めた



#### 第3位

山本勝也(右)  
平野晃生(早大)

思い切りの良い攻撃とラリー志向のペア。吉村・堀(愛工大)との1戦は見事であった



#### 第4位

上江洲光志(左)  
松下大星(愛工大)

松下の来るコースの読めない一発ドライブと上江洲の丁寧な攻撃が良かった



#### 男子複優勝 田添健汰(右)・郡山北斗(専大)



田添の台上処理、カウンター攻撃に加え、郡山の両ハンド攻撃が冴えた。コンビネーションも良かった



## Women's

女子ダブルスは、鈴木李茄・安藤みなみ(専大)と小道野結・高橋結女(早大)が決勝で対戦。鈴木・安藤は、第1ゲームを落とすも、2ゲーム目以降は冷静なプレーで得点を重ねて優勝を決めた。「優勝を狙っていたのですが、春季リーグ戦と比べて調子が良くなかったのが不安がありました。試合を重ねていくうちに調子が出たと思います」と鈴木。「鈴木さんが安定しているので私は思い切って攻撃をして、鈴木さんについていだけでした」と安藤。準優勝の小道野・高橋(早大)は2連覇を狙うも、あと一步届かず。ベスト4には、山本・明神(中大)、高橋・浜畑(同志社大)が入った。

#### 準優勝

小道野結(左)  
高橋結女(早大)

動きの早い速攻プレーを主体に、たたみかけるような攻撃がよかった



#### 第3位

山本怜(左)・明神佑実(中大)

コース取りが上手く、ラリー戦に強いペア



#### 第4位

高橋真梨子(左)  
浜畑保菜美(同志社大)

コンビネーションが良く、お互いの役割を理解したプレーが良かった



#### 女子複優勝 鈴木李茄(左)・安藤みなみ



鈴木の安定したプレーと安藤の攻撃が噛み合い、嬉しい初タイトル

